

# P連だより

市川市PTA

連絡協議会

平成18年度

第2号

2006年12月15日発行

発行：市川市PTA連絡協議会  
 編集：市川市PTA連絡協議会 広報部会  
 発行責任者：山下幸治  
 事務取扱：市川市教育委員会生涯学習部  
 生涯学習振興課内  
 〒272-0143 千葉県市川市八幡1丁目1番1号  
 TEL. 047-334-1111 (内線4324)  
 FAX. 047-336-8048



## 市川市PTA連絡協議会

ホームページ <http://www.ichikawa-pta.jp/> 電子メール [info@ichikawa-pta.jp](mailto:info@ichikawa-pta.jp)

### 第50回研究大会が参加校56校で開催！

第50回市川市PTA研究大会が9月9日に生涯学習センター(メディアパーク市川)にて開催されました。テーマは「PTAが今出来ることを考える」とし、参加は56校145名でした。今回の研究大会は、以前のアンケートで「中学校と小学校とでは温度差があるので分けてほしい。」、「一つの分科会の参加者が多すぎることではないか」とのご意見があったことから、前回の4会場より6会場へと増やし、分科会を中学校2つ、小学校4つに分け「子どもの安心安全」「家庭での役割」「地域との関わり」の3つの議題について各学校の現状など意見交換が行われました。

この各分科会の様子は西垣教育長ほか、大塚教育次長、篠田校長会々長にもご覧頂きました。

分科会の後に、全体会にて分科会の報告が行われ、その中には「時間が足りなかった。」と

### 第50回市川市PTA研究大会

「PTAが今出来る事を考える」  
市川市PTA連絡協議会



講評をされる西垣教育長

### 各分科会の発表を真剣に聞く参加者 (生涯学習センター グリーンスタジオ)



の感想がでるほどの活発な分科会になったようです。

その後、山下会長は「各校のPTA活動で当たり前と思っていたことが、他の学校に触れ合うことで、また違う目線で見ることが出来る良い機会になった」と思っています。」と挨拶しました。

また、西垣教育長より挨拶及び分科会を見て回られての講評を頂きました。お話の中には、安全マップや地図をつくる際に、小学低学年と高学年や中学生では地図の見方が違い、小学低学年対象では一部立体的であったり、拡大するなど工夫をして、子どもの目線で作成する必要があるといった、社会科の先生としての一面もお話いただき、盛況のうちに閉会となりました。

(アンケート結果は2面)

### 第五十四回日本PTA全国大会みやぎ大会

8月26・27日の両日、全国のPTA約1万人の参加者が宮崎に集まりました。

初日は朝から宮崎市内各所で12の分科会が行われ、市川からは、第5分科会の地域連帯「安全安心な地域づくりのためPTAのはたす役割」に参加しました。参加者は800人程度、朝の基調講演から、夕刻までの熱い討議が行われました。

午前中の基調講演は、コーデイナーターで地域防犯マップの提案者、立正大学の小宮信夫教授は「今、各学校で作られる防犯マップの8割は間違った作り方をし、防犯マップではなく有害マップになっている」と、始めにお話になり、犯罪者や犯罪の原因に着目するのではなく、「入りやすく、見えにくい場所」に犯罪が起きやすく、それを見つめる目と、起こる場所や犯罪を起す機会を無くす事で、確実に犯罪を減らしてゆく。そんな所には、必ずゴミや落書きと言う、周囲にいる人々の無関心のサインがある。それを見つけ減らしてゆくと言う視点は、目から鱗が落ちる思いでした。

午後からは実践発表を2件。始めに「未来永劫に続く子どもたちの為に何ができるか」と言う視点で始めた「こども110番」の共通のシール活動を宮崎県全体で行われている事例を宮崎県PTA顧問の堀田さんに。次にPTA活動からNPO法人を作り、子どもの安全や地域との連携をしながら、子どもたちと関わってゆく素敵な活動をされているNPOきよたけ郷ハートレム理事長の初鹿野さんの元気一杯のお話を伺いました。

質疑応答の時間もたっぷり2時間、最初に市川から質問をさせていただけ、防犯に対する各地での悩みや質問に、視点を何処に置くべきかと認識しつつ、全国の皆さんのお話も何え充実した時を過ごせました。

2日目は全体会と記念講演、残念ながら記念講演講師の水谷修さんは、ご立腹で会場を立ち去るハプニング、お話を伺うことは出来ませんでした。ここで学んだ物をそれぞれの単Pに持ち帰ってください」と、おっしゃる主催者のお言葉通り、魅力ある2日間でした。(大野小・山下)

